

ザドルガ研究への序章

南塚 信吾

バルカンの南スラヴ人のあいだに見られた大家族共同体ザドルガ *Zadruga* を正確に定義することは難しいが、さしあたりザドルガ研究の代表者モズリの定義を借用すると、ザドルガは、いくつかの家族が「血縁または養子関係で密接に結合され、生産手段（土地、家畜、農具）を共有し、生活手段の生産と消費を共同で行い、その財産、労働、生計の管理を共同で行う」⁽¹⁾ 共同体、とすることができる。ザドルガでは、家長を中心に、結婚した成年男子が合議しながら、この共同体を運営していく。労働はザドルガのなかでの分業によって行われる。このザドルガの長は、外にたいしてザドルガを代表し、税を納め、村会に出て、村長を選ぶ。中世以来存在したこのザドルガは、一九世紀中頃からは衰退し始めたが、戦間期を生き抜

き、戦後によりやく解体したのもあった。そして、その精神はまだバルカンの人々の生活に生きているのではないかとも思われる。

このザドルガは、日本では、ほとんど本格的な研究はなされていないと言ってよい。社会人類学の中村孚美氏⁽²⁾や、中根千枝氏⁽³⁾、それに歴史学の立場から筆者が⁽⁴⁾、ある程度の紹介をしているにすぎない。ところが、欧米では近年ザドルガの研究が家族史研究の昂揚と絡みながら顕著な発展を見せている。筆者たちは、東欧史研究の深化のために二年程前からザドルガの研究を始めているが、まだ研究はほんの端緒でしかない。しかし、この機会を利用して、これまでの研究の成果の一部を、ザドルガの研究史という形で、中間的に報告させてもらうこととしたい。

一 研究状況

ザドルガに関する文献は、これまでに三つの波を描いて現れている。一つは、十九世紀後半から二〇世紀初頭であり、二つは、戦間期の、とくに一九三〇年代であり、三つは、一九六〇年代以後である。

十九世紀後半からの文献は、バルカン自身でいえば、多分に実践的な性格のものであった。十九世紀に入って進行するザドルガの解体にもなつて生じる民法上の法律問題として、あるいは、解体すべき近代的に発展させるべきかという経済・社会政策の問題として、さらには、ナロードニキの影響を受けた社会主義者たちによる未来社会の構想のかぎとして、ザドルガが実践的課題を負いつつ、しかも概して理論的に議論された⁽⁵⁾。一方西欧においては、集団的所有から個人的所有への、集団婚から一夫一婦制への、大家族から小家族への移行の過程における過渡的形態として、ザドルガに理論的な関心が示されていた⁽⁶⁾。ザドルガの衰退は、十九世紀に西欧世界を支配するに至った個人的原理の優位を示すものと理解され、そういう原理の成立の前期的母胎としてザドルガに関心が向けられたといえよう。

戦間期におけるザドルガへの関心は、これとはやや異なっているようである。一九三〇年代にバルカンの農民は農業恐慌に襲われた。そういうとき、バルカンには、土地所有農民を基礎にした国家を構想する人民主義者が現れて、ザドルガの精神を取り入れた共同社会を作るべく、農村調査を精力的に行った⁽⁷⁾。西欧世界においても、とりわけ個人的原理が危機に直面

した一九三〇年代に、ザドルガへの関心が高まった。十九世紀末には急速に衰退しつつあったザドルガが、完全には消滅せず、意外な根強さを示したことに、研究者の関心は向けられている。⁽⁸⁾

第二次世界大戦後ザドルガの研究はしばらく途絶えていた。農業の社会主義化にもなつてザドルガはほぼ根絶されたからである。わずかにユーゴスラヴィアの学者の一連の研究があるにすぎないといつても過言ではない。⁽⁹⁾しかし、一九五〇年代にはザドルガ研究の復活の動きが始まり、一九六〇年代以後、ザドルガ研究がふたたび高まつてきている。⁽¹⁰⁾それはいろいろな要因によつていふと考えられる。一つには、社会人類学の分野において、家族制度の研究に新しい見方が広がり、大家族が必然的に小家族に発展していくというそれまでの見方が相対化されたことによる。二つには、歴史学の分野において、バルカンの社会主義の現実を戦前の社会との連続性のなかで考えようという見方が芽生えたことによる。一九五〇年代にはいかにも異質な社会がバルカンに植え付けられたように見えていたが、スクリーン批判後だけにそれぞれの社会の固有の条件が重視されてきているといえる。こうした契機から一九六〇年代以後、主として欧米の研究者のあいだでザドルガ研究の新しい波が形成されつつあると考えられる。

当のバルカン諸国においては、ザドルガなるものはすでに過去の遺物なのだという見方が支配的であったが、やはり一九六〇年代にはいつて、ソ連での共同体再評価の動きを受けてであろうか、共同体論の一環としてザドルガ研究が進められるようになった。⁽¹¹⁾

二 事例研究の現状

以上のような波のなかでザドルガに関する文献はかなり多く出されたが、ザドルガの事例研究そのものは意外に乏しい。まず、中世については、ザドルガが十二—十三世紀から見られるという長年の主張にもかかわらず、その時期の事例研究は多くはない。十九世紀末にセルビアのノヴァコヴィッチがいくつかの事例をあげたのを受けて、二十世紀初頭にバイスカーが、十四—十五世紀におけるザドルガの実態を修道院文書を用いて明らかにしようとした。だが、それ以後は、ごく近年に現れたハムメルのものしか見当たらない。かれも、アトス山の修道院文書を分析して、十四世紀バルカンのある村の家族構

成を推定し、ザドルガというるものは、村の世帯全体の三〇パーセント程度だったのでないかという推論をしている。⁽¹²⁾
これ以外に中世の事例研究は知られていない。

その後のオスマン・トルコ支配下におけるザドルガの事例研究も、その重要性にもかわらず、まったく知られていない。やはりノヴァコヴィッチがこの時期の事例を幾つか扱ったあと、研究は進んでいない。一九六〇年代にはいつて、ユーゴスラヴィアやブルガリアの研究者たちが十五—十八世紀のオスマン・トルコ支配期の法制度や農村共同体の研究を進めてはいるが、まだ具体的な事例研究を示すまでには至っていない。⁽¹³⁾

十九世紀におけるザドルガの事例研究として最も初期の事例を扱ったのは、やはりごく近年に出たトマシエヴィッチのトマシエヴィッチ村についてのものであろう。かれは、アドリア海に面したドゥプロヴニクの近くにあるベレンャツ半島の同村で、自分の親戚筋から一八〇九年から一八五〇年にわたる史料を手に入れて、当時の同村におけるザドルガの構成を明らかにしている。⁽¹⁴⁾ 十九世紀後半については、ブルガリア人の政治家ゲシヨフと民族学者マリノフがかなり多くの事例を挙げているが、一つのザドルガに踏み込んだ事例研究ではない。(その意味では、セルビア人のパヴロヴィッチのものが優れた事例研究のようにあるが、筆者はまだ見ていない)⁽¹⁵⁾。

事例研究が比較的多いのは戦間期である。まず、一九二〇年代については、ヘルツェゴヴィナにある一つのザドルガについての回想的記録がW・ヴチニッチによって近年著された。一九二五年に解体したこのザドルガに生活していたかれは、自分の体験を交えてザドルガの構造や生活や慣習をいきいきと描き出している。⁽¹⁶⁾ 一九三〇—四〇年代に入ると、二つの重要な事例研究がある。一つは、アメリカのモズリが調査したスラヴォニア地方のヴァルジッチ・ザドルガの事例である。かれはザドルガが最も衰退しているはずの平地にあるザドルガの研究をして、ザドルガの根強い抵抗力を実証しようとした。この事例研究はヴァルジッチ家のザドルガの歴史、構造、収支、村との関係、解体要因などをあきらかにしている、のちのザドルガ研究の一つのモデルになっている。⁽¹⁷⁾ 二つは、イギリスの女性人類学者ロッジが調査したセルビアの山岳地帯テトヴォのザドルガの事例である。彼女はとくにザドルガにおける女性の地位に注目しながらザドルガでの生活や分業のありかたの調

査を行っている。⁽¹⁸⁾このほか、アメリカのサンダースが、一九三〇年代にブルガリアで教師として活動するあいだに観察したザドルガや村の記録を、戦後に著書として発表している。¹⁹⁾他方、この時期のバルカン自身での事例研究というべきものは、ほとんどないようである。

大戦後には、しばらくの空白が続くが、一九五〇年代末にアメリカのハルパーンによってセルビアのシュマディア地方にあるオラシャツツ村のザドルガの事例研究が発表された。これは一九五三年以来の調査の報告であり、一八六三年の統計をも利用して、ほぼ一世紀にわたる世帯構成の変化を明らかにしている。これは一九七〇年代に、共同研究によって拡充されている。この間一九六〇年代には、エーリヒもセルビアの三〇〇の村の事例研究を行って、ザドルガ研究に寄与している。そうして、一九七〇年代半ばに、モズリの死を惜しんで、ハルパーン以下のザドルガ研究者が、モズリの主著を復刻するとともに、一連の研究論文を載せた本を著した。⁽²⁰⁾バルカン自体では、ユーゴスラヴィアやブルガリアの人類学者たちが少しずつ事例研究に手を伸ばしつつあるようである。⁽²¹⁾

ザドルガをめぐることは、その起源、衰退の原因、家長の機能、家族会議の役割、ザドルガより大きな血縁関係の役割、村その他の地方行政との関係、封建支配やオスマン・トルコ支配との関係、あるいはザドルガの地域的存在範囲、まわりの民族の家族制度との比較、さらには、ザドルガが時々の政治や経済や民衆運動にとって持った意味など、さまざまな問題がある。そのいくつかは社会人類学などによって解明されつつあるが、まだ多くの問題が歴史学からの解明にまつところが多いように思われる。

注

- (1) Mosely, Ph. E., *The Peasant Family: The Zadruga, or Communal Joint-Family in the Balkans and Its Recent Evolution*, in Ware, C. F. ed., *The Cultural Approach to History*. New York, 1940, p. 95.
- (2) 中村孚美「ユーゴスラヴィアの大家族共同体(ザドルガ)について」『社会人類学研究会報』(都立大学) No. 2 (一九六二—六三)

(3) 中根千枝『家族の構造——社会人類学的分析』東京大学出版会 一九七〇。

(4) 南塚信吾『東欧経済史研究序説』多賀出版 一九八五。

(5) ヴェルマン自身への研究として井上氏の著述を採る。 Utičėnović, OG. M., Die Hauskommunien der Südslawen, Wien, 1859; Bogišić, V., Pravni Običaji u Slovena, Zagreb, 1867; ibid., De la forme dite "inokosna" de la famille rurale chez le Serbes et les Croates, Revue de Droit International et de Legislation Comparée, 1884, 4; Geshov, I., Zadrugata v Zapadna Bălgaria, Sofia, 1886; Marković, S., Serbien am Osten, 1886; Novaković, St., Selo, Beograd, 1891; Marinov, D. Ziva Starina, II., Ruse, 1892; Jovanović, A., I storijski razvitak spske zadrugę, Beograd, 1896; Marković, M., Die serbische Hauskommunion (Zadruga) und ihre Bedeutung in der Vergangenheit und Gegenwart, Leipzig, 1903.

(6) この時期の風俗は、その文化圏の中心地の『イギリスの法律家』Laveley, E., La propriété et de ses formes primitives, Bruxelles, 1874; Maine, H., Dissertations on Early Law and Custom, London, 1883; Radulowits, M. W., Die Hauskommunion der Südslawen, Heiderberg, 1891; Peisker, J., Die serbische Zadruga, Zeitschrift für Soziologie und Wirtschaftsgeschichte, VII, 1900.

(7) 一九三〇年代の歴史学者として Filipović, M., Zadruga Spasića (Ćurkowska kuća) u Bulčanima, Glasnik Skopskog naučnog društva, 1930; Bičanić, R., Kako živi narod, Zagreb, 1936. その翌に一九三〇年代の歴史学者として Popović, V., Zadruga, Sarajevo, 1921; ibid., Zadruga, Teorija i literatura, Glasnik Zemaljskog Muzeja, 1921—22 年々々。

(8) Erlich, V.S., The south slaw patriarchal family, Sociological Review, 32, 1940; Lodge, O., Peasant Life in Yugoslavia, London, 1941; Mosely, Ph., The Peasant Family, in Ware, ed., The Cultural Approach to History, New York, 1940; ibid., Adaptation for survival: The Varžić Zadruga, The Slavonic and East European Review, XXI(1943); Sicard, E., La Zadruga sud-slave dans l'evolution du groupe domestique, Paris, 1943.

(9) 歴史学者 Filipović, M., Nestrodnička i predvojena zadruga, Beograd, 1945. ところがこの本の出版の前後を通じて、Tomasevich, J., Peasants, Politics, and Economic Change in Yugoslavia, Stanford, 1955; その著者の著述は、その著者の著

Селска заједница и њен развој у Србији. М. О., Семинарски списак, 1948; Mandić, O., Klasni karakter buržoaskih teorija o postanku zadruga, Istoriko-pravni zbornik, Sarajevo, 1950. 3 - 4 2
180

② Halpern, J. M., A Serbian Village, New York, 1958; Ehrlich, V. S., Family in Transition: A Study of 300 Yugoslav Villages, Princeton, 1966; Halpern, J. M. and Barbara K. Halpern, A Serbian Village in Historical Perspective, New York, London etc. 1972; Laslett, P. and R. Wall, ed., Household and Family in Past Time, Cambridge, 1972; Byrnes, R. F., ed., Communal Families in the Balkans: The Zadruga, Notre Dame, London, 1976; Halpern, B. K. and J. M. Halpern, Selected papers on a Serbian Village, Research Report No. 17. Department of Anthropology of Massachusetts, Amherst, 1977.

③ Gavazzi, M., Seljačke obiteljski zadruga, Zagreb, 1960; ibid., Zadruga: Die Erforschung der Grossfamilien Südosteuropas, Österreichischen Osthefte, Wien, 1965; Pesheva, R., Južnoslavjanskaja zadruga v kontse 19 i nachale 20 v., Actes du Premier Congrès international des études balkanique et sud-est européens, Sofia, 1971; Krâstanova, K., Znepolskata familija, Vekove, 1983, No. 3. 44 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

- ② Hammel, E. A., Some medieval evidence on the Serbian zadruga, in Byrnes ed., Communal Families.
③ 田中幸次' Grozdanova, E., Bâlgarskata selska opshchina prez XV—XVIII vek, Sofia, 1979.
④ Tomasevich, J., The Tomasevic Extended Family on the Peninsula of Peljesac, in Byrnes ed., Communal Families.
⑤ Pavlović, J., Život i običaji narodni u Kragujevačkoj Jasenici u Šumadiji, Srpski Etnografski Zbornik, 22, Beograd, 1921.
⑥ Vucinich, W., A Zadrugn in Bileca Rudine, in Byrnes ed., Communal Families.
⑦ 田中幸次'

- (18) (3)を参照。
 - (19) Sanders, I. T., *Balkan Village*, Lexington, 1949.
 - (20) (10)を参照。
 - (21) (11)の Krastanova など。
- (なお、本稿の作製には、寺島憲治、越村勲両氏の御協力をいただいた。)

(千葉大学・東欧史・ハンガリー史)